

令和5年度多摩市立図書館事業評価

多摩市読書活動振興計画に基づく重点的事業 基本目標(2) 子どもへのサービスの充実	
評価項目 【取り組み4】 多摩市子どもの読書活動推進計画の推進 【担当：企画運営2】	
● 第三次多摩市子どもの読書活動推進計画に基づき、計画を推進する。また、これまでの進捗状況と計画の残り期間を見渡した上で、令和5年度は図書館全体（各館・係）において、次の事項について、重点的に取り組む。【継続】 ① 図書館ホームページの子どもの読書に関わるページの情報の充実【子ども読書】【継続】 ② ブックリストの作成、改訂【子ども読書支援係】【継続】 ③ 外国語資料、多文化に対応した資料の充実、提供を進める。【子ども読書】【継続】 ④ 幼稚園、保育園の園児を対象とする市立図書館のPRをする。【子ども読書】【継続】 ⑤ 児童館、学童クラブとの連携を進める。【子ども読書】【継続】 ⑥ 小、中学生にむけての市立図書館のPR（広報誌の発行等）【子ども読書】【継続】 ⑦ 複本の充実【子ども読書】【継続】 ⑧ 支援の必要な子どもたちへの新たな取り組みのために、関係課・機関との連携を進める。【子ども読書】【継続】 ⑨ おはなし会ボランティアの後継者育成のあり方を検討する。【子ども読書】【継続】 ⑩ 子どもが本や図書館に親しみをもてるように、おはなし会やクイズラリーなどのイベント等、内容をより工夫し実施する。【全館】【継続】 ⑪ 保育園・幼稚園へのセット貸出の実施【企画運営】【新規】 ⑫ 現在児童館と共同で行っている赤ちゃんお話し会よちよち（年3回）以外に、図書館主催の赤ちゃんお話し会を行う【東寺方】【新規】 ⑬ 児童コーナー書架のリニューアル【聖ヶ丘】【新規】 ⑭ 外国語での読み聞かせを行っている団体と協働してイベントを開催できるよう、団体に働きかける。【唐木田】【継続】 ⑮ おはなし会の外部でのPRや出張おはなし会の実施【サービス係】【継続】	
実施結果 （具体的な取り組み状況）	① 図書館ホームページの子どもの読書に関わるページの情報の充実【子ども読書】【継続】 新しい本やおすすめの本のページ、各館で毎月開催しているおはなし会の予定、おはなし会にご協力いただいている団体紹介のページ等について適宜更新した。 また、子どもを対象とした講座等、イベントについてのお知らせを掲載した。
	② ブックリストの作成、改訂【子ども読書支援係】【継続】 読んでみよう6年生の改訂を行った。 また、支援が必要な子ども、その保護者等に向けた「発達に凹凸がある子の子育て応援ブックリスト」を作成した。作成にあたっては、日頃から相談支援を行っている発達支援室職員の協力・助言をいただいた。

③ 外国語資料、多文化に対応した資料の充実、提供を進める。【子ども読書】【継続】 所蔵の少ない中国語訳の絵本を２タイトル購入した。それぞれ７セット購入し、行政資料室を除く各館で所蔵できるようにした。
④ 幼稚園、保育園の園児を対象とする市立図書館のＰＲをする。【子ども読書】【継続】 中央図書館において、幼稚園園児による図書館見学の受け入れを実施した。館内の見学と図書館職員によるおはなし会を行った。➤実施回数：２回
⑤ 児童館、学童クラブとの連携を進める。【子ども読書】【継続】 児童館、学童クラブともに資料の団体貸し出しを継続して実施した。 児童館内において、児童虐待防止月間に合わせた企画展示を実施した。全１０館にそれぞれ８冊ずつ展示を行い、児童館で２カ月ごとに発行しているわくわく通信へおはなし会の予定について掲載依頼した。 児童館・学童クラブや市内小・中学校、保育園・幼稚園、その他社会福祉施設、子ども食堂を対象にリサイクル本配布会を実施した。 実施日：２月１３日～１６日（市立小・中学校対象） ２月１９日～２２日（施設対象） 参加施設数：計３０施設 配布数：計２３５点
⑥ 小、中学生にむけての市立図書館のＰＲ（広報誌の発行等）【子ども読書】【継続】 多摩市立図書館ニュースについて、小学校１～３年生、４～６年生、中高生向けの３種類を作成し、夏休みに間に合うよう７月に発行し、市立小学校・中学校、都立永山高校、都立多摩桜の丘学園の児童・生徒に配付した。
⑦ 複本の充実【子ども読書】【継続】 選書会議について、毎週水曜日に実施した。 児童書を３,２６１冊を購入し、内複本として、１,１５９冊購入した。
⑧ 支援の必要な子どもたちへの新たな取り組みのために、関係課・機関との連携を進める。【子ども読書】【継続】 ・発達支援室と連携し、「発達に凹凸がある子の子育て応援ブックリスト」の作成を行った。子ども向け資料だけでなく、保護者向け資料についても掲載した。 ・都立多摩桜の丘学園と連携し、生徒の中央図書館訪問を受け入れている。事前調整等については、先生方との情報交換の場となっている。 ・永山図書館において、職場体験として市内特別支援学校の中学２年生の生徒２名を受け入れた。中央図書館においても、職場体験として市立中学校特別支援学級３校の中学２年生の生徒５名を受け入れた。短期間ではあったが、生徒たちは積極的に業務に取り組み、働く体験を通じて、就業への理解を深め、今後の進路決定に活かせる有意義なものとなった

・永山図書館において、平成 30 年度より実施している、市内特別支援学校 4・5 年生におはなし会の実演・指導を行った。

① 5 年生へのおはなし会 (1 月 16 日) 会場：永山図書館 おはなしコーナー
参加児童数：22 名

② 4 年生へのおはなし会 (1 月 19 日) 会場：多摩桜の丘学園 プレイルーム
参加児童数：15 名

③ 5 年生による保育園児へのおはなし会 会場：多摩桜の丘学園 教室

⑨ おはなし会ボランティアの後継者育成のあり方を検討する。【子ども読書】【継続】

・子どもたちが読み聞かせなどを通じて本に親しめるおはなし会を今後も安定して継続していくため、多摩市立図書館おはなし会ボランティア活動の推進についての方針に基づく、「令和 6 年度多摩市立図書館おはなし会新規ボランティア受け入れ・育成手続き (内規)」を作成した。

➤新型コロナ等感染症感染拡大防止のため、これまで実施を見送ってきたが、今後は読み聞かせ講座を実施し、おはなし会ボランティアにも繋がるよう支援していく。

⑩ 子どもが本や図書館に親しみをもてるように、おはなし会やクイズラリーなどのイベント等、内容をより工夫し実施する。【全館】【継続】

・聖ヶ丘図書館において、連光寺児童館と連携し「赤ちゃんおはなし会」を実施し、おはなし会の最後に保護者向けの本の紹介も行った。全 6 回開催。8/22・11 人、9/26・27 人、10/24・20 人、11/28・14 人、1/16・18 人、2/20・26 人。

➤毎回 10 組前後の参加者があったことは、十分な図書館 PR に繋がったと考えている。

・関戸図書館において、夏休みはワードラリー図書館探検「かくれた文字を探せ」、冬休みは好きな本を干支の龍に貼り紹介する「ほん、だいすき」を実施した。

①ワードラリー図書館探検「かくれた文字を探せ」は、幼児から中学生までの参加があった。図書館のどこにどんな本が置いてあるか関心を持ってもらえる機会となった。

➤実施期間：7 月 22 日～8 月 28 日 ➤参加人数：293 人

②好きな本を干支に貼り紹介する「ほん、だいすき」は、昨年度に引き続き実施。好きな本を紹介する人と紹介された本を読む人との交流が生まれた。

➤実施期間：12 月 20 日～1 月 17 日 ➤参加人数：68 人

➤イベントの実施により、普段は手に取らない分野の資料を目にする機会となったり、好きな本の紹介によって交流が生まれるなど、社会教育施設として、新たな分野を学ぶ機会や利用者同士がつながる機会を提供することができた。

・永山図書館において、夏休みは「夏のスペシャルおはなし会『いきものいっぱいおはなし会』」、展示「やってみよう！自由研究」、永山図書館で誕生したキャラクターの名前を募集する「永山図書館キャラクターの名前を決めよう！」を、春休みには「ほんともフェスタ」に合わせて「ほんともフェスタ スペシャルおはなし会『はるだ！』」を実施した。

①夏のスペシャルおはなし会『いきものいっぱいおはなし会』

前年度も参加した親子がいるなど、リピーターの参加もあった。

➤実施日：8/2 ➤場所：永山公民館 視聴覚室 ➤参加者数：12人（定員15組）

② 展示「やってみよう！自由研究」

自由研究のテーマに関連する本と実際に自由研究を行った見本を展示。

見本に興味を持ち、観察したり触ったりする子どもたちが多く関連する本はすぐに借りられ、追加を行った。

➤展示期間：7月21日～8月30日

③キャラクターの名前を募集する「永山図書館キャラクターの名前を決めよう！」

小学生にもおはなし会に興味を持ってもらおうとキャラクター3体を作画し、名前を募集。結果発表後、しおりをプレゼントした。大人からも希望があり、永山図書館に親しみを持ってもらえる機会となった。

➤募集期間：7月21日～8月30日 ➤参加人数：延べ900人

➤結果発表：10月11日～10月31日 ➤しおり配布枚数：194枚

④「ほんとふえスタ スペシャルおはなし会『はるだ！』

修了式にあわせ特別感のあるプログラムを実施。小学生の参加も見られた。

➤日時：3月22日 ➤場所：永山図書館おはなしコーナー ➤参加人数：24人

このほかにも、ベルブ永山内の保育園と連携し、9月より保育園児が図書館のおはなし会に来館している。保育園児参加のおはなし会（一般の利用者も参加可）

➤毎月1回開催 ➤参加人数：延べ153人

⑪ 保育園・幼稚園へのセット貸出の実施【企画運営】【新規】

- ・両園への団体貸し出しを促進するため、あかちゃん絵本や紙芝居を含む資料30点を1つのセットにし、資料を選ぶ手間を軽減した団体貸し出しをスタートさせた。全15種類。また、貸出・返却の申込について、Logoフォームの活用を開始した。貸出・返却の方法については、各館を回っている連絡便の活用を検討し、運航可能な日程を確保し、ルート設定を行った。6月に周知を開始し、1件の利用申し込みがあった。

学童や児童館に比べ利用が少ない保育園、幼稚園の団体貸出の利用促進につながるよう、複数の利用方法を用意しておくことで、その園にあった利用方法を選択することができる。また市立図書館として、保育園や幼稚園の先生方の手間をできる限り軽減した利用方法を用意していることで、子どもたちへの保育等の時間の充実に繋がっていけばと考えている。

- ・広く団体貸し出しとしては、パルテノン多摩に児童書を中心に貸出し、4階にあるこどもひろばOLIVEにある書架に貸出した児童・ティーンズ向けの資料を配架している。月2回、約500冊の資料の入れ替え及び書架整理を実施した。

➤貸出冊数：1,026点

除籍した雑誌をパルテノン多摩のこどもひろばOLIVEへ配架し、定期的に更新した。

➤親子の利用が多いパルテノン多摩4階こどもひろばOLIVEを利用する市民にとって、図書館資料に出会える場となることにより図書館の認知度を高め、図書館の利用につながると考えている。

⑫ 現在児童館と共同で行っている赤ちゃんお話し会よちよち（年３回）以外に、図書館主催の赤ちゃんお話し会を行う【東寺方】【新規】 クリスマス時期に、クリスマスに合わせた内容の絵本を読み、最後にツリーに飾りつけを行った。 ➤実施時期：12月8日 ➤参加人数：5名
⑬ 児童コーナー書架のリニューアル【聖ヶ丘・永山】【新規】 ・聖ヶ丘図書館において、特に絵本の並べ方を変更した。変更したことで、利用者自身が目的の本を探しやすくなった。 ・永山図書館において、ティーンズの分類が配置されていた書架へ雑誌絵本を移動し、児童企画展示コーナーを拡充した。「布の絵本」を活用しやすくなるよう、おはなしコーナーの横へ移動した。おはなし会がその後の読書につながるよう紹介した本を展示するコーナーを設置した。永山図書館で誕生したキャラクターの名前募集にあわせ、キャラクターを用いて図書や行事の紹介を行った。 ➤雑誌絵本は以前の場所ではあまり借りられなかったが、子どもの目線にあわせて面だし展示を行い、貸し出しが促進された。「布の絵本」はおはなしコーナーでひろげて楽しむ親子の様子が見られた。おはなし会で紹介した本の展示は、需要が高くすぐに借りられている。キャラクターは子どもたちの関心をひき、親しみやすいコーナーとなっている。
⑭ 外国語での読み聞かせを行っている団体と協働してイベントを開催できるよう、団体に働きかける。【唐木田】【継続】 外国語での読み聞かせを行っている団体（2団体）と協働して、共同のおはなし会を開催し、子どもたちが様々な文化に触れるようにした。 実施回数：年５回 ➤参加人数：延べ78名
⑮ おはなし会の外部でのPRや出張おはなし会の実施【サービス係】【継続】 都立多摩桜ヶ丘公園主催事業 SATOYAMA アウトライブにおいて、図書館職員によるおはなし会を行った。 ➤実施日：10月8日及び2月11日 ➤開催回数：1日2回、計4回

・第三次計画の期間を1年延長したこともあり、アクションプランについても引き続き作成することで、これまでの取り組みの「見える化」にも繋がり、現在策定中の「(仮称)第二次多摩市読書活動振興計画」を考える上での資料となっている。

①新しく購入した本や毎月のおはなし会の予定、子どもを対象としたイベントなどについて広報を行い、多くの方々にご参加いただけたと感じているため、引き続き充実に努めたい。

②毎年計画的に進めているブックリスト「よんでみよう！」の6年生の改訂を行った。作成にあたっては、対象となる学年の児童の読書傾向について、学校図書館司書等への情報収集に努めた。読書が苦手な子どもにも本を手にとってもらえるよう、また読書好きな子どもにはより広い分野に興味・関心を持ってもらえるよう心がけ、掲載する本の分類等、バランスを考え作成した。このブックリストは、市立小学校の全児童に配付しており、各学校の読書指導にも活用されていることから、子どもの読書啓発に効果をもたらしているものと考えている。

③⑭外国語資料について、所蔵の少ない言語の資料を全館分購入することができた。日本語以外を母国語とする方々にも絵本等に親しんでいただけるよう、また、すべての子どもたちが様々な言語に出会うきっかけとなるよう、今後も資料収集に努めたい。

外国語での読み聞かせを実施できる団体もあることから、収集した資料の活用も進めていきたい。

④⑪保育園・幼稚園へのPRについては、なかなか進まないのが現状である。しかしながら、セット貸し出しを開始したり、図書館見学に来ていただいたりと、少しずつではあるが、生まれた関係性を大切に、今後の事業運営につなげていく。

⑤児童館、学童クラブとの連携として、企画展示を実施することができた。児童虐待防止月間に合わせて行ったものであるが、親子についての資料等、暗くなる要素のない資料も提供したことについてはとても好評であった。

⑥小中学生に向けたPRとして図書館ニュースを作成し、できる限り多くの児童・生徒に見てもらえるよう、夏休みに活用できるよう、7月に発行、配付することができた。

⑦複本については、新刊本の複本だけでなく、買い替えについても適宜進めることができた。

⑧支援が必要な子どもたちへは、その子ども達と家族等へ向けたブックリストを完成させることができた。また、職場体験などで業務を体験してもらうこともできた。職場体験等を実施する際には、先生方との密な連携が必要不可欠であることを改めて実感した。今後も十分な連携を取りながら、事業を実施していく。

⑨おはなし会ボランティアの後継者育成については、内規を作成した。スタートとして令和6年度より読み聞かせ講座を実施していく。

⑩⑫⑬各館において、長期休みの時期等を利用した催しを企画し、参加者が楽しんでいる様子が見え、今後も可能な範囲で、継続できればと考えている。また、資料の並べ方や配架場所を変更することにより、資料の探しやすさや貸出促進につながったことは、利用者目線を心がけ、耳を傾けているからこそできたことと考えており、今後も継続して実施していく。

⑮外部でのおはなし会等の場を利用して、図書館のPRを行えたことは、貴重な機会であったと感じている。今後も職員対応可能な範囲で、このような機会の活用ができればと考えている。

【取り組み4】多摩市子どもの読書活動推進計画の推進

- ① 子どもの読書に関わる図書館ホームページの充実の部分は、継続的に更新しており良い。
- ② ブックリストの作成、改訂についても改訂がどの学年でいつ実施されたのか明記されておりわかりやすい。改訂後、学校司書から意見をもらう機会をつくれるとよい。
- ③ 外国語資料について、中国語の資料を購入しているのは良い。ただ実際、どれくらい利用しているか、利用したい人に情報が届いているのか疑問がある。求めている人に情報が伝わるよう工夫が必要。多摩市国際交流センターに情報を伝えるといいと考える。
- ④ と⑤にある児童館、学童クラブとの連携については、とても良い。
- ⑦ 複本の充実について努めている点は評価できるが、予算の許す範囲で、おはなし会用の絵本についても充実を図ればさらに良い。
- ⑧ 支援の必要な子どもたちへの連携とあるが、すべての子どもに届けられるように努めてほしい。情報提供として「多摩市立図書館ニュース」などの配布先を公立の学校だけでなく市内療育センター等も加えるとよい。
発達支援室とのブックリストの取組は、支援が必要な子やその家族等に向けてだけではなく、その他多くの目につくところに配布先を広げるとよいのではないかな。
- ⑩ 聖ヶ丘図書館で子ども向けイベント「赤ちゃんおはなし会」の最後に、保護者向けの本を紹介したのは、とてもよい。子ども向けのイベントについて、実施しただけで終わるのではなく図書館職員もイベント内容を評価、検討できるよう、項目を絞ったり、シールを使うなど方法を工夫し、参加者にアンケートがとれるとよい。
- ⑪ 保育園や幼稚園を対象としたセット貸出について、セットの内容が分からない、汚してしまったら、と懸念している園や自分たちで図書館に来て、団体貸出している園が多いようだ。季節の絵本などが定期的に入れ替えられると利用する園も増えてくるのではないかな。園が利用しやすくなるよう、利用したくなるよう検討してほしい。

第三次子どもの読書活動推進計画の最終年（期間1年延長のため）にあたり、図書館、関係課、小・中学校の取り組み事項について、取りこぼしのないように取り組んでいく。そして、新たな計画へスムーズに移行できるよう、検討を進めていく。

②改訂したブックリスト「よんでみよう！」について、活用状況や感想など、学校司書研修の場などを活用して状況等の把握を実施していく。

③ 外国語資料については、引き続き、資料の収集に努めていく。これらの資料が必要な方々に活用していただけるよう、多摩市国際交流センターなどと連携し、情報を発信に努める。

⑦複本の充実については、予算の許す範囲になるが、できる限り対応していく。

⑧支援の必要な子どもたちへの連携については、情報提供として発行している「多摩市立図書館ニュース」などについて、学校関係だけでなく、市内療育センター等、子どもたちが通う施設への配付についても検討していく。また、発達支援室と協力し作成した「発達に凹凸がある子の子育て応援ブックリスト」については、館内での案内や子育て支援センターなどへの設置により、多くの保護者の手に届けることができるよう検討していく。

⑩子ども向けのイベントは、大きなものから小さなものまで様々実施している。参加者の率直な意見を知ることやそのイベントについて客観的に評価できることは必要であると考え。提案いただいたシール等を使つての簡単なアンケートができるよう検討していく。

⑪団体貸出サービスにおけるセット貸出については、令和6年度中に利用しやすい仕組みに改善し、改めて幼稚園・保育園の両園長会にて案内する。その際、セット内容の一部が分かる資料作りに努める。貸出返却のどちらも、インターネットでの申し込みとしているため、実際に使った感想を伺えるよう、改めてではなく、返却申し込みの際、任意ではあるが、同時にアンケートへの協力も依頼していく。

基本目標（５） 弾力的な管理・運営	
評価項目 【取り組み１１】本館の機能強化	
● 令和５年７月の中央図書館の開館に向けて移転、開館準備を進めるとともに管理運営計画方針に従い、円滑な運営を行う。【企画運営・サービス】【継続】 ● 中央図書館の開館に向け必要な資料を収集・配架し蔵書の適正化を図る。 ① 中央図書館の開館に向け、計画的に選書に取り組む。【企画運営】【継続】 ② 中央図書館で必要な雑誌、新聞、ＡＶ資料を収集する。【企画運営】【継続】	
実施結果 (具体的な 取り組み 状況)	● 令和５年７月の中央図書館の開館に向けて移転、開館準備を進めるとともに管理運営計画方針に従い、円滑な運営を行う。【企画運営・サービス】【継続】 ・令和５年７月の中央図書館の開館に向けて、移転スケジュールに従い準備を進め、５月７日の旧本館閉館後、本館及び団体室、書庫の蔵書の移転、システム機器の移転、開館準備を行い、７月１日に無事開館した。 ５月８日～３１日 蔵書移転、配架（書庫の配架は６月以降も実施） ６月１日～３０日 蔵書点検・開館準備・研修・オペレーション ・移転期間中に、大妻女子大学図書館サークル OLIVE 及び大妻女子大学附属中学高等学校の生徒を配架やシール貼り等の作業をボランティアとして受け入れた。 ５月１４日～６月２５日 １１回 ７８人 ・６月末に中央図書館開館業務の運用について土日に勤務する応援職員を含め、中央図書館職員で確認するとともに７月の開館以降も必要に応じて、運用を見直し円滑な運用に努めた。
	① 中央図書館の開館に向け、計画的に選書に取り組む。【企画運営】【継続】 ・中央図書館用資料として、JIS ハンドブック等の工業分野の資料、ビジネス等の社会科学分野の資料、資格試験関連など時事性が高い分野を重点的に、合計 9,086 冊を購入した。 ・一般書のレファレンス資料、小説や料理手芸などの分野を各館から中央図書館へ資料の移管を行い、中央図書館の蔵書の充実を図った。
	② 中央図書館で必要な雑誌、新聞、ＡＶ資料を収集する。【企画運営】【継続】 ・令和４年度に引き続き、クラシックコンサートの名演奏や日本アカデミー賞受賞映画など映像資料のほうがり理解しやすい分野を選書し購入した。DVD 購入枚数 ７８枚 ・令和４年度に中央図書館の雑誌を充実させるため不足している分野の雑誌や専門的な雑誌を洗い出し、各館と調整した雑誌を令和５年度から所蔵館を中央図書館に変更し、中央図書館の雑誌の種類を増やした。 - 令和４年度 購入：８５タイトル 寄贈：１２タイトル - 令和５年度 購入：１２７タイトル 寄贈：１５タイトル ・令和４年度に中央図書館の新聞を充実させるため、複本を見直すとともに専門誌や外国語の新聞の所蔵館変更を調整し、中央図書館の新聞の充実を図った。また過去の新聞記事を網羅的に調べることができるよう、令和４年度まで４館（本館・東寺方・関戸・永山）で分散収集していた縮刷版（４紙）を全て中央図書館所蔵に変更した。 - 令和４年度 購入：９タイトル 寄贈：２タイトル - 令和５年度 購入：１９タイトル 寄贈：３タイトル

図書館の自己評価	・令和5年7月の中央図書館の開館に向けて、移転スケジュールに従って、蔵書移転などの準備を進めた。書庫の配架や蔵書点検は想定以上に時間がかかったが、大妻女子大学図書館サークル OLIVE の協力もあり6月中に終了し、無事開館することができた。 開館当初は、来館者や新規利用者登録が予想以上に多く、書架の乱れが目立つなど予想外のこともあったが、都度、改善策を検討し対応できる事は迅速に行い、円滑な運用に努めた。 ① 中央図書館用資料の充実を図った結果、経営に関する法律や起業に関する資料の問い合わせをいただいている。時事性が高い分野であるため、今後も定期的に資料を購入していく。 ② 今まで雑誌等は一定の場所にまとめて配架していたが、中央図書館では、関連する書籍の近くに雑誌等を配架したため、利用者が情報にアクセスしやすくなった。
図書館協議会の外部評価	【取り組み11】本館の機能強化 ① ビジネス支援については、人的支援がまだできていない。 旧本館閉館後7月1日の中央図書館開館に向けて蔵書の移転等、多くの困難があったことは容易に想像できるが、無事に開館を迎えられ、開館後多くの来館者に対応できたことは評価できる。 ② 雑誌の配架について、配架方法をこれまでの集中配架とは違う方法で配架しているため、利用者が探せるよう既存のマップなどに場所を落とし込んだほうがよい。一方、雑誌が分散していることで利用者に図書館内を回ってもらうことも回遊が生まれ、逆に様々な情報を新たに発見する面白さにつながる可能性があり良いのではないかと。 中央図書館の雑誌の充実に努めてほしい。
今後の方向性	① 中央図書館の開館以降もビジネス関連資料を充実させている。図書館として、ビジネススキル習得や様々な資格に関する資料を提供することで、それらに関心を持つきっかけを作っているが、今後は、起業や資格取得など利用者の具体的な行動を支援するため、経済観光課などと連携した取組を行っていく。 ② 雑誌については、多摩市電子図書館の電子書籍として充実に努めている。一方、図書館の雑誌は、訪れた方が関連する資料を見つけやすく、興味の幅を広げることができるようにするため分散させて配架している。今後は、電子書籍の案内を行うとともに、図書館内においても雑誌の所在が分かりやすくするよう、案内方法を検討する。

評価項目 【取り組み16】 ICT の活用	
● 中央図書館に導入予定の I C タグ関連機器、図書館システムの増設、W i - F i 、デジタルサイネージについて、令和5年7月の開館までに稼働できるように準備を進め、7月の開館以降は円滑に運用を目指す。 【企画運営】【継続】	
実施結果 (具体的な取り組み状況)	● 中央図書館に導入予定の I C タグ関連機器、図書館システムの増設、W i - F i 、デジタルサイネージについて、令和5年7月の開館までに稼働できるように準備を進め、7月の開館以降は円滑に運用を目指す。【企画運営】【継続】 - 中央図書館に新たに I C タグ関連機器（セルフ貸出機、セルフ返却機、予約資料受取りコーナー）を令和5年7月の開館までに設置し、開館前に円滑な運用ができるよう中央図書館職員を対象とした運用研修を実施した。 中央図書館 ◇新規登録者数 10,382 人 (R4 1,281 人) 前年度の約 8.1 倍 ◇セルフ貸出機による貸出冊数（7月～3月） 421,853 冊（中央図書館貸出冊数 446,729 冊の 94%がセルフ貸出機による貸出） - 中央図書館に Wi-Fi 環境を7月の開館までに整備し、円滑に運用ができた。 来館者数 令和5年度（7月～3月）711,023 人 - 中央図書館にデジタルサイネージを3カ所設置（1階入口、2階入口、へなそうのへや） ◇7月～3月の掲載件数 150 件
図書館の自己評価	- 開館後は、セルフ貸出機やセルフ返却機の案内を職員が積極的に行うとともに、デジタルサイネージで使い方を案内し、周知することで円滑な運用ができた。メインカウンターが2ヶ所になったほか活動室の部屋の管理や個人研究室やグループ研究の席の管理など新たに窓口での業務が増え、旧本館に比べ利用者数も増えたが、I C タグ関連機器を活用することにより大幅に職員を増やすことなく対応ができた。 1階、2階では、毎月のイベントのお知らせやセルフ貸出機の利用方法などのお知らせを定期的に行った他、臨時の施設点検や視察の予定なども都度掲載した。来館者もデジタルサイネージの前で足を止めている様子も見られ、P R ツールとして活用ができた。

図書館協議会の外部評価	【取り組み１６】ICTの活用 ・セルフ貸出機の利用状況について 94%と高い利用率になっている。基本は職員が使い方を案内しているという対応は評価できる。 ・セルフ貸出機で既に貸出済の資料を読み取ってしまったり、ゲート付近で近くの本を読み取ってエラーが出る場合がある。こういうエラーが出ないようにすることが難しいのであれば、どういう時そのようなエラーが出るのか、エラー情報を利用者に示して、理解をしてもらう必要がある。 ・ＩＣタグ関連機器を活用することで大幅に職員を増やすことなく対応できたとあり評価できるが、今後、余力があれば子どものコーナーのカウンターにも土日や春、夏、冬休み期間など職員を配置できると良い。 ・デジタルサイネージについては掲載件数を含め新たな情報ツールとして来館者に認知されていると考えられ、有効に機能している様子がうかがえる。 ・デジタルサイネージは、更新された色々な情報が流れ、パッと目に止まり、たまたま目にした情報を手に取るきっかけとなる反面、詳細な情報はサイネージだけでは得られないため、ホームページでの掲載やサイネージのそばに、関心を持った市民が持ち帰られる紙のチラシを置くなどの工夫ができればより効果的である。 ・へなそうのへやにあるデジタルサイネージは、開館以来情報が更新されておらず、気づかない利用者も多いと感じるため、児童書のエリアに設置されていることを活かし、おはなし会の情報なども掲載するなど、より見てもらえる工夫を検討するとよい。
今後の方向性	・セルフ貸出機やWi-Fi、電子図書館等のＩＣＴ機器の利用に不慣れな利用者に対して、引き続き丁寧な案内や利用説明会などを実施し、スムーズに利用できるように努めていく。 ・中央図書館に設置しているデジタルサイネージについて、より一層図書館の情報源として認識してもらえるよう、定期的な更新に努めていく。また、へなそうのへやに設置しているデジタルサイネージについて、認知度の向上をはかるため、情報の更新や情報の追加などを検討する。